

津山まちじゅう博物館構想アクションプラン（案）に対する意見募集実施結果

募集期間：令和6年2月26日（月）～令和6年3月25日（月）17時

意見提出者数：5人

意見提出件数：4件

No	項目	ご意見の概要	回答
1	全体	東西を通じて道路整備をします。溝蓋を統一します。 東新町から西新町を博物館館のプロムナードとしてはいかがですか？ アルネの中の出雲街道も同じです。	東西を通じた道路・溝蓋等の整備は、通行しやすい環境づくりやエリア全体をとらえたストーリーづくり（プロムナード等）も重要なものであると考えております。道路等の整備にあたっては、計画に基づき、市内外の方に安全に利用いただけるよう住民の皆様の意見を聞きながら進めていきたいと考えます。
2	全体	まちじゅう博物館構想自体くだらないので、やめてほしいです。	感想のため回答しない。
3	6ページ核となるエリアの設定と拠点施設の整備	拠点施設に津山遺産を未来に引き継ぐための津山地域活力の向上に重要な拠点施設として、アルネ津山をいれるべきです。 全体施設をつなぎながら活性化させると、現在のアルネ津山活性化策のエネルギーになります。津山市の歴史上最大の公共投資の歴史として市民も学習し、未来の市民にとって津山歴史の重要施設と認識してもらえます。 アルネ津山は、今回の構想の核となる拠点施設です。 人の流れと商店街の活性化にも多大な貢献となり、話題にもなります。 津山市の近代化政策の象徴として是非とも採用していただきたい。	津山遺産の性質によって、郷土の歴史を伝えるもの、文化振興の起点になるものなど、様々なものがあります。アルネ津山については中心市街地活性化計画などにおいて、津山地域活力の向上に重要な集客拠点施設として、今後も必要な施策を進めていきたいと考えます。
4	6ページ「コアミュージアム設定の考え方」について。	「〇〇館」というように地域別に観光資源をまとめようとするのはわかるが、観光客にとっては訪れる場所を選ぶ自由度が下がるのではないかと感じた。私は、「春はつやま」や秋季のイベント（津山まつりや紅葉まつりなど）と結びつけて、むしろ「特別展」のように季節別に観光資源をまとめてもよいのではと感じた。	〇〇館については、それぞれのコアエリアを博物館になぞらえ、全体のイメージとして示したものととなります。各エリアに存在する展示物の繋がりによりエリア全体の魅力を図るものがあります。今後におきましては、季節別に観光資源をまとめる取り組みも含め施策事業として検討していきたいと考えます。
5	全体	良く出来た俯瞰的な視点と考察手法がとられ市民参加も行われ構想として大まかな骨格は間違いないと思われます。 ですが何故か迫力に欠け「発展」のイメージが描きにくい。企画された皆さんの必死感が伝わらず盛り上がり欠き現状と何も変わらない平勢感から抜け出せないのです。 それは何故か「高額資金」を必要とする津山城天守閣再建が語られていないからです。 「津山城天守閣再建活動」の盛り上がりそのものを「津山の発展」を語る「起爆剤」とし、今後の「新たな仕組みを作る」活動の軸として是非取り入れて頂きたい。	津山城天守閣再建は、津山市民の夢であり津山遺産を語る上で非常に大胆で有効な施策であると感じています。しかし、非常に大きな支出が伴うのも事実であります。津山城天守閣の再建につきましては、本案はアクションプランであるため、活動の軸として取り入れることは難しいですが今後も皆様からのご意見を聞きながら随時研究を進めていきたいと考えております。 市内には、まだまだ多くの埋もれた宝物が存在していますので、それらの津山遺産も再認識し、津山らしさの創造に努めてまいりたいと考えます。